九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

Diagnostic Performance of 48-Hour Fasting Test and Insulin Surrogates in Patients With Suspected Insulinoma

植田, 圭二郎

https://hdl.handle.net/2324/1806869

出版情報：九州大学, 2016, 博士（医学）, 課程博士
バージョン：
権利関係：やむを得ない事由により本文ファイル非公開（3）

（別紙様式２）

氏　　名	植田　圭二郎
論　文　名	Diagnostic Performance of 48-Hour Fasting Test and Insulin Surrogates in Patients With Suspected Insulinoma
論文調査委員	主　査　　九州大学　　教授　　康　東天 副　査　　九州大学　　教授　　北園　孝成 副　査　　九州大学　　教授　　中西　洋一

論　文　審　査　の　結　果　の　要　旨

インスリノーマ診断の gold standard は 72 時間絶食試験であり, 優れた感度が報告されている。しかし，患者と医療スタッフともに負担が大きく，絶食期間の短縮が試みられている。また，低血糖を起こす他の疾患でも絶食試験陽性となることがあるが，その特異度について十分な検討はされていなかった。本研究では、インスリノーマ診断における 48 時間絶食試験と insulin surrogates の有用性が検討された。

インスリノーマが疑われて 48 時間絶食試験とその後のグルカゴン負荷試験をおこなった 35 症例(Insulinoma 群:15 症例・Non-insulinoma 群:20 症例)を対象とした。絶食期間, 絶食終了時の血糖値, 血清中のインスリン値と C ペプチド値, insulin surrogates である血清中のβヒドロキシ酪酸と遊離脂肪酸, グルカゴン負荷試験に対する血糖値の反応性(Δplasma glucose; ΔPG)を測定した。

インスリノーマ診断における 48 時間絶食試験は感度 100.0%，特異度 80.0%であった。インスリンは感度 69.2%，特異度 100.0%，C ペプチドは感度 100.0%，特異度 6.3%であった。insulin surrogates では ΔPG が感度 93.3%，特異度 75.0%で正診率 82.9%と最も優れていた。続いて 48 時間絶食試験とその他のパラメーターを組み合わせてインスリノーマにおける診断能を評価すると，48 時間絶食試験と ΔPG の組み合わせが最も優れており，感度 93.3%，特異度 95.0%，正診率 94.3%であった。

以上の結果から 48 時間絶食試験と ΔPG を組み合わせることで, 従来法より短時間で, より正確なインスリノーマの診断が可能であることが示唆された。

発表のあと、専門的立場から種々の質問を行ったが、おおむね適切な回答を得た。よって主査副査3人の委員の合議の結果、試験は合格とした。